

拝啓 平素はエコキャップ運動へご理解ご厚意を賜り誠にありがとうございます。

この度は、そのご厚意に対し、誤解を生じる対応を当協会が取ってしまったこと事を深くお詫び申し上げるとともに、皆様に経緯を説明致したく、遅くなりましたがこの書面をお届けする次第です。

4月10日朝日新聞の記事掲載の後から、ご提供の皆様から当協会にいただきましたご質問をまとめたものを、Q&A形式にして添付させていただきました。ご一読いただければと存じます。宜しくお願い申し上げます。

当協会は前年度の活動として、エコキャップの売却益を地球環境改善への取り組み事業に 5,441,677 円、障がい者支援事業へ 19,068,064 円充てさせていただきました。

地球環境改善への取り組み事業の内容としては、主に全国の学校様への環境教育を企画立案し実施致しました。また、障がい者支援事業の内容につきましては、安定的な障がい者雇用創出を実現するための「エコステーション」事業に注力致しますと共に、アートを通じた自立を目指す障がい者アーティストの発掘・支援活動に取り組んでまいりました。

今年度エコキャップ売却益については、医療支援・ワクチン支援活動を再開し、地球環境改善・障がい者自立支援事業・被災孤児等の支援事業などに並行して充てさせて頂きたいと考えております。

先の報道にありましたように、当協会は「世界の子どもにワクチンを日本委員会」(以下 JCV)の理念に賛同し、2013年度までワクチン支援寄付を実施して参りました。しかしながら、当協会が行った寄付について、その成果に関する事業報告の提供を再三求めて参りましたが、ご回答いただくことは叶いませんでした。更には、定額の寄付をする事を約束する念書を求められるに至り、キャップのリサイクル促進を目的とする当協会と、ワクチン支援活動を目的とする。JCVの相互連携において、前提となる相互の信頼が築けない状態となりました。

今後の医療支援・ワクチン支援活動については、医療支援をおこなう国際 NGO への寄付を予定し、準備を進めております。

これからも当協会の運営方針について、ご協力事業者様はもとより、エコキャップをご提供いただける皆さまにご理解いただけるよう、信頼回復に努めて参ります。

何卒変わらないご支援・ご協力を賜ります様お願い申し上げます。

敬具

Q&A

Q 1 ワクチン代への寄付活動は完全にやめてしまったのですか？

A いいえ。前期（2013/9/1～2014/8/31）に限りましては、障がい者支援を重点的に行いましたので、ワクチン代への寄付活動は中断いたしましたが、今期（2014/9/1～2015/8/31）から再開し継続します。

Q 2 なぜワクチン代として寄付しなかったのですか？

A エコキャップ推進協会は設立当初からワクチン代の寄付と併せて、子どもたちへの環境教育や、障がい者の雇用創出・自立支援を NPO 活動として行ってきました。この一環として前期（2013/9/1～2014/8/31）から、障がいを持つ方々が、仕事として地域のエコキャップ集約拠点運営に携わる「エコステーション」の設置プロジェクトが開始されました。

このプロジェクトは施設等と連携した障がい者の雇用創出を通じて、地域ごとの集約拠点を整備することでエコキャップていしゅつ提供時の負担を低減し、今後継続的かつ効果的にワクチン等の医療支援活動を実施していくための取り組みでもあります。そのため、前期に限って障がい者の雇用創出・自立支援活動を、優先的に集中実施しました。

Q 3 JCV に寄付を続けていたのに、なぜやめたのですか？原因は何ですか？

A JCV に対しては、これまで 1 億 2460 万 3902 円にのぼる寄付を継続しておりましたが、寄付したお金が、例えばどの国の子どもたちにワクチンを何本送ったといったことを私どもは知りたかったのですが、一度も事業報告を開示いただけませんでした。

このような寄付先に疑義を感じていたさなかに、今度は毎月いくら払うと約束せよとか、いつまでにいくら支払うということを一筆書けといった寄付の強要が始まりました。

寄付はお互いの信頼関係をベースに成り立つ行為です。

財源の問題があるので、いつまでにいくら寄付するといった文書は出せない。と返しました。すると遂に、昨年 12 月に JCV は私どもに送付した内容証明郵便をホームページにアップするということまで行いました。

これを契機に JCV への寄付を中断した次第です。

Q 4 いつワクチン医療支援の寄付を再開しますか？

A 今期から寄付を再開します。今期とは、2014/9/1～2015/8/31 です。

Q 5 今期のワクチン支援の寄付先はどこですか？

A 現在、医療支援をおこなう国際 NGO 団体等を予定し、準備を進めております。

Q 6 ワクチン代は何に寄付しましたか？

A 主に福島県群山市に設置した、エコステーション構想のモデルケースである「エコステーション東日本」の地代や光熱水費、また、作業に必要な機器等の環境設備や什器の支援などに充てられました。

Q 7 「エコステーション構想」とは何ですか？

A キャップをリサイクルする際は、異物の除去等、前処理として必要な作業があります。その作業を知的障がい等で就労の機会を得ることのできない方々に行っていただくことで、就労と社会参画の場を作り出すのが、当協会の進めるエコステーション構想です。

エコステーションは、単に障がい者支援という意義だけではなく、全国各地のエコステーションに地域の提供者から直接キャップを持ち込むことによって、輸送費の削減を実現できるという意義も併せ持ちます。

Q 8 今後の活動について聞かせてください。

A 今後、エコキャップの売却益については、ワクチン等医療支援活動への寄付、障がい者の就労支援・自立支援活動、主に子供たちを対象とした環境教育活動などに、平行して充てて参ります。また、ご協力事業者様を含め、エコキャップをご提供くださる皆さまにご理解頂けるよう、信頼回復に努めて参ります。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

詳しいことは、[特定非営利活動法人エコキャップ推進協会の HP](#)をご覧ください。